

『蒙山和尚法語略録』校本

竹越 孝

<凡例>

- ・本稿は、宋末元初の禅僧蒙山徳異(1232-?)の法語を、高麗の普濟尊者慧勤(懶翁, 1320-1376)が抄録し、李氏朝鮮の慧覺尊者信眉(?-?)が諺解を附した書、『蒙山和尚法語略録』の漢字部分を対象とする校本である。本書の解題及びその朝鮮語における問題に関しては小倉(1940)、中村(1963)志部(1983)、伊藤(2004)等を参照。
- ・『蒙山和尚法語略録』は七篇の短文からなる。それぞれの篇名と本稿で用いる略称は次の通り：①示古原上人【原】；②示覺圓上人【圓】；③示惟正上人【惟】；④示聰上人【聰】；⑤無字十節目【無】；⑥休休庵主坐禪文【坐】；⑦示覺悟禪人法語【悟】。うち①～⑥は蒙山和尚の法語であり、最後の⑦が普濟尊者の法語である。また①～⑤は白話、⑥⑦は文言で記されている。
- ・本稿が扱う『蒙山和尚法語略録』の異本は、通文館(1954；弘文館1996再印)及び韓國學文獻研究所(1980)に収録された影印六種である。朴炳采(1980)によると、これらは次の三類に分かれるという：
 - 甲類：〔甲一〕刊經都監本(1464-1468年刊?)；〔甲二〕通文館本(1472-1481年刊)；〔甲三〕深源寺本(1525年刊)
 - 乙類：〔乙一〕孤雲寺本(1517年刊)；〔乙二〕氷鉢菴本(1535年刊)
 - 丙類：〔丙一〕松廣寺本(1577年刊)このうち、通文館本以外はすべて韓國學文獻研究所(1980)に収められている。朴氏によれば、上の諸本は初刊本(甲一)、初刊本の再刊本(甲二)、初刊本の覆刻本(甲三)、初刊本の改刻本(乙一)、改刻本の覆刻本(乙二)、そして甲・乙類を参照して新たに作った改訂本(丙一)という系統関係にあるとされる。本稿では甲類の刊經都監本を底本とし、他本との漢字部分における異同を注記する。
- ・原文は漢字一字ごとに東国正韻式の漢字音を附すとともに、フレーズごとに懸吐し、文ごとに改行して諺解を附するという形を取るが、本稿では懸吐された箇所には句点を打ち、諺解が附されるごとに段落を分けた。【 】内には各篇の略称と段落番号を記し、各段落末尾の()内には底本における出処を記す。外字は{ }内に構成要素を示した。

蒙山和尚法語略録普濟尊者法語附(1a1-2)

慧覺尊者信眉¹(1a3)

- 【原 00】示古原上人(1a4)
- 【原 01】話頭上。有疑不斷。是名真疑。(1a5-6)
- 【原 02】若疑一上少時。又無疑者。(1b1-2)
- 【原 03】非真心發疑。屬做作。(1b5-6)
- 【原 04】是故。昏沉掉舉。皆入作得。(2a1-2)
- 【原 05】更要坐得端正。(2a5)
- 【原 06】一者。睡魔來。當知是何境界。(2a7-8)
- 【原 07】纔覺眼皮重。(2b3)
- 【原 08】便著精彩。(2b5)
- 【原 09】提話頭一二聲。(2b7)
- 【原 10】睡魔。退。可如常坐。(3a2-3)
- 【原 11】若不退。便下地。行數十步。(3a6-7)
- 【原 12】眼頭。清明。又去坐。千萬照顧話頭。及常常鞭起疑。(3b2-4)
- 【原 13】久久。工夫。純熟。方能省力。(3b8-4a1)
- 【原 14】做到不用心提話頭。自然現前時。(4a4-5)
- 【原 15】境界及身心。皆不同先已。(4b1-2)
- 【原 16】夢中。亦記得話頭。如是時。大悟。近矣。(4b5-6)
- 【原 17】却不得將心。待悟。(5a1)
- 【原 18】但動中靜中。要工夫。無間斷。(5a4-5)
- 【原 19】自然。塵境。不入。真境。日增。漸漸有破無明力量。(5a8-5b2)²
- 【原 20】力量。充廣。疑團。破。無明。破。無明。破。則見妙道。(5b6-8)
- 【原 21】夫叅禪。妙在惺惺。(6a5)
- 【原 22】靈利者。先於公案。檢點。有正疑。(6a8-6b1)
- 【原 23】却不急不緩。提話頭。密密迴光自看。則易得大悟。身心。安樂。(6b6-7a1)³
- 【原 24】若用心。急。則動肉團心。血氣不調等病。生。非是正路。(7a7-7b1)
- 【原 25】但發盡正信心。真心中。有疑。則自然。話頭。現前。(7b5-7)
- 【原 26】若涉用力舉話時。工夫。不得力在。(8a3-4)
- 【原 27】若動中靜中。所疑公案。不散。不衝。話頭。不急。不緩。自然現前。
(8a8-8b3)

¹ 「慧覺尊者信眉」：通文館本、深源寺本、孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの記述を欠く。なお、韓國學文獻研究所(1980)に冒頭と末尾の2張分のみ影印が収められる楡岾寺本では「慧覺尊者信眉譯解」に作る。

² 【原 18-19】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

³ 【原 21-23】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの三段を合わせて一段とする。

- 【原 28】如是之時。工夫。得力。(9a1-2)
- 【原 29】却要護持此箇念頭。常常相續。(9a5-6)
- 【原 30】於坐中。更加定力。相資。爲妙。(9b1-2)
- 【原 31】忽然築著磕著。心路。一斷。便有大悟。(9b5-6)
- 【原 32】悟了。更問悟後事件。(10a5-6)
- 【圓 00】示覺圓上人(10a8)
- 【圓 01】叅禪。須透祖師關。妙悟。要窮心路。絕。(10b1-2)
- 【圓 02】祖關。不透。心路。不絕。盡是依草附木精靈。(10b8-11a2)
- 【圓 03】僧。問趙州。狗子。還有佛性也。無。州。云。無。(11a6-8)
- 【圓 04】只者箇無。字。是宗門。一關。(11b4-5)
- 【圓 05】有心。透不得。無心。透不得。(11b8-12a1)⁴
- 【圓 06】惺惺靈利。直下掀翻。捉敗趙州。還我話頭來。(12a4-6)
- 【圓 07】若有一毫末。且居門外。(12b1-2)
- 【圓 08】覺圓上座。覺也。未。妙覺。圓明。當識趙州是何面目。道介無。字。意。作麼生。(12b5-8)
- 【圓 09】蠢動含靈。皆有佛性。趙州。因甚。道無。(13a6-7)
- 【圓 10】必竟。者箇無。字。落在甚處。(13b3-4)
- 【圓 11】本覺。未明。一一有疑。大疑。則有大悟。(13b7-14a1)
- 【圓 12】却不得將心。待悟。又不得以意。求悟。(14a5-6)
- 【圓 13】不得作有無。會。不得作虛無。會。不得作鉄掃帚。用。不得作繫驢橛。用。(14b1-4)
- 【圓 14】從教疑團。日盛。於二六時中四威儀內。單單提箇無。字。密密。迴光自看。(15a1-4)
- 【圓 15】看来。看去。疑來。疑去。百無滋味時。有些滋味。(15b2-4)
- 【圓 16】却不可生煩惱。(15b8)⁵
- 【圓 17】疑得重。話頭。不提。自然現前。却不得歡喜。(16a2-4)
- 【圓 18】濃淡。任他。直如老鼠。咬棺材。只管提箇無。字。看。(16a8-16b2)
- 【圓 19】若於坐中。得妙定力資。正好提撕。(16b6-7)
- 【圓 20】但不用著力。爲妙。(17a3)⁶
- 【圓 21】若著力提撕。則解散定境。(17a5-6)
- 【圓 22】能善用心。忽然入得定時。却不可貪定。而忘話頭。(17b1-3)
- 【圓 23】若忘却話頭。則落空去。無有妙悟。(17b7-8)
- 【圓 24】起定時。亦要保護定力。(18a3-4)

⁴ 【圓 04-05】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

⁵ 【圓 15-16】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

⁶ 【圓 19-20】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

- 【圓 25】於動靜中。一如。昏沉。掉舉。悉絕。亦莫生喜心。(18a7-18b1)⁷
- 【圓 26】忽然{口<力}地一聲。透過趙州關已。(18b5-6)
- 【圓 27】一一下語。諦當。箭箭。柱鋒。(19a1-2)⁸
- 【圓 28】勘破趙州。得人憎處。法法。圓通。差別。機緣。一一明了。(19a6-8)
- 【圓 29】正要求悟後生涯。(19b4)⁹
- 【圓 30】若不然。如何得成法器。(19b7-8)
- 【圓 31】宜觀先聖標格。切忌杜撰。會麼。(20a3-4)
- 【惟 00】示惟正上人(20a8)
- 【惟 01】五祖演和尚。示衆云。釋迦彌勒。猶是他奴。他。是阿誰。(20b1-3)
- 【惟 02】直下悟徹。道得諦當。可以超脫分段生死。(20b7-21a1)
- 【惟 03】更進竿頭闊步。了大丈夫事業。(21a4-5)
- 【惟 04】惟正上座。能悟徹也。未。(21a8-21b1)
- 【惟 05】否則急宜惺惺。下真實工夫。如法叅究。以大悟。爲入門。(21b4-6)
- 【惟 06】所謂叅究者。當疑釋迦彌勒。是佛。因甚。猶是他奴。必竟。他是阿誰。
(22a3-6)
- 【惟 07】疑得盛。却提撕他是阿誰。迴光自看。(22b3-4)
- 【惟 08】不要用心大緊。緊則動色心。生病。(22b7-8)
- 【惟 09】不可大緩。緩則忘却話頭。入昏沉掉舉去也。(23a4-6)
- 【惟 10】妙。在善用其心。(23b2)
- 【惟 11】發盡正信心。捨盡一切世間心。惺惺密密。提撕。(23b4-6)
- 【惟 12】於坐中。最易得力。(24a3)
- 【惟 13】初坐時。抖擻精神。放教身体。端正。不可背曲。(24a5-7)¹⁰
- 【惟 14】頭腦。卓豎。眼皮。不動。平常。開眼。(24b3-4)
- 【惟 15】眼睛。不動。則身心。俱靜。靜而然後。定。(24b7-25a1)
- 【惟 16】定中。却要話頭。現前。不可貪定。而忘話頭。(25a5-7)
- 【惟 17】忘則落空。反被定迷。無有是處。(25b3-4)¹¹
- 【惟 18】定中。得力。易。却要惺惺不昧。(25b7-8)
- 【惟 19】忽有一切好惡境界現時。都不要管他。(26a3-4)
- 【惟 20】話頭。分曉。倏忽。境界自清。(26a8-26b1)
- 【惟 21】起定之時。緩緩動身。護持定力。(26b4-5)
- 【惟 22】於動用中。保持得話頭。有疑。提撕。不用力。緜緜密密。無有間斷時。

⁷ 【圓 24-25】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

⁸ 【圓 26-27】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

⁹ 【圓 28-29】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

¹⁰ 【惟 12-13】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

¹¹ 【惟 16-17】：孤雲寺本、氷鉢菴本、松廣寺本はこの二段を合わせて一段とする。

(26b8-27a3)

【惟 23】工夫。漸漸成片。得如澄秋野水。湛湛清清。縱有風動。並是清波。

(27a8-27b3)

【惟 24】到如是時。大悟。近矣。却不得將心。待悟。(27b8-28a2)

【惟 25】不要求人穿鑿。不要思量卜度。不要求解會。但提話頭。看。(28a6-28b1)

【惟 26】若其他公案。有疑。及經典上。有疑。盡攝歸來他是阿誰上。看。(28b6-29a1)

【惟 27】衆疑逼發。築著磕著。{口<力}地一聲。正眼。開明。(29a6-8)

【惟 28】便能下得到家語。投機語。箭鋒相柱語。識得差別機緣。前來所有一切疑碍。冰消無餘。(29b4-8)

【惟 29】法法。圓通。得升堂¹²已。切忌小了。(30a6-7)

【惟 30】更來。指汝。進步入室。了徹大事。(30b3-4)

【聰 00】示聰上人(30b8)

【聰 01】黃檗。見百丈。舉再叅機緣。便吐舌。是。得百丈力耶。得馬祖力耶。(31a1-4)

【聰 02】巖頭。見德山。一喝。便禮拜。是。知恩耶。報恩耶。(31b2-4)

【聰 03】又荅洞山語。云。我。當時。一手。擡。一手。搦。那裏是他。擡搦處。(32a1-4)

【聰 04】見徹二老。骨髓者。便好著一轉語。截斷諸方舌頭。許汝得入門已。(32b3-6)

【聰 05】其或未然。急宜叅究。若涉叅究。便論工夫。(33a2-4)

【聰 06】直須依本分。如法。始¹³得。(33a8-33b1)

【聰 07】當於本叅。公案上。有疑。大疑之下。必有大悟。(33b4-6)

【聰 08】千疑萬疑。併作一疑。於本叅上。取辦。(34a2-3)

【聰 09】若不疑言句。是爲大病。(34a7-8)

【聰 10】仍要盡捨諸緣。於四威儀內。二六時中。單單提箇話頭。迴光自看。(34b3-6)

【聰 11】若於坐中。得力。最多。坐宜得法。不要瞠眉努目。遏捺身心。(35a2-5)

【聰 12】若用氣力。則招病苦。(35b2-3)

【聰 13】但端身正坐。平常開眼。身心。境界。不必顧著。(35b6-8)

【聰 14】或有昏沉掉舉。著些精彩。提舉一二聲話頭。自然諸魔。消滅。(36a4-6)

【聰 15】眼定。而心定。心定。而身定。若得定時。不可以爲能事。(36b3-5)

【聰 16】或忘話頭。沉空滯寂。不得大悟。反爲大病。(37a2-4)

【聰 17】吾祖。西來。單提直指。以大悟爲入門。不論禪定神通。此是末邊事。(37a8-37b3)

【聰 18】若於定中。得悟明者。智慧却能廣大。水陸。並進也。(38a1-3)

【聰 19】工夫。若到濃一上淡一上。無滋味時。正好進步。漸入程節。切不可放

¹² 「堂」：孤雲寺本、氷鉢菴本は「當」に作る。

¹³ 「始」：松廣寺本は「如」に作る。

捨。(38a7-38b2)

【聽 20】惺惺。便入靜。靜而後。定。定各有名。有邪有正。宜知之。(38b8-39a2)

【聽 21】起定後。身心。輕清。一切處。省力。於動中。打成一片。却當字細用心。(39a7-39b2)

【聽 22】趣逐工夫。始終。不離靜淨二字。靜極。便覺。淨極。光。通達。(39b8-40a3)

【聽 23】氣肅風清。動靜境界如秋天相似時。是第一箇程節。(40b1-3)

【聽 24】便宜乘時進步。(40b8)

【聽 25】如澄秋野水。如古廟裏香爐相似。寂寂惺惺。心路。不行時。亦不知有幻身。在人間。(41a2-6)

【聽 26】但見箇話頭。縣縣不絕。(41b3-4)

【聽 27】到者裏。塵。將息。而光。將發。是第二箇程節。(41b7-42a1)

【聽 28】於斯。若生知覺心。則斷純一之妙。大害也。(42a5-7)

【聽 29】無此過者。動靜。一如。寤寐。惺惺。話頭。現前。(42b2-4)

【聽 30】如透水月華。在灘浪中。活潑潑。觸。不散。蕩。不失時。中寂。不搖。外撼。不動矣。是第三箇程節。(42b8-43a4)

【聽 31】疑團。破。正眼開。近矣。(43b4-5)

【聽 32】忽然築著磕著。啐地折。爆地斷。洞明自己。捉敗佛祖。得人憎處。(43b8-44a3)

【聽 33】又宜見大宗匠。求煅煉。成大法器。不可得少。爲足。(44b1-3)

【聽 34】悟後。若不見人。未免不了後事。其害非一。(44b7-45a1)

【聽 35】或於佛祖機緣上。有碍處。是。悟。淺。未盡玄妙。(45a5-7)

【聽 36】既盡玄妙。又要退步。韜晦保養。力量。全備。看過藏教儒道諸書。消磨多生習氣。(45b3-6)

【聽 37】清淨。無際。圓明。無碍。始可高飛遠舉。庶得光明。盛大。不辱先宗。(46a5-8)

【聽 38】其或換舊時行履處。未盡。便墮常流。(46b5-7)

【聽 39】更若說時。似悟。對境。還迷。出語。如醉人。作爲似俗子。機。不識隱顯。語。不知正邪。撥無因果。極爲大害。(47a2-7)

【聽 40】先輩。正之與邪。大有樣子。(47b7-8)

【聽 41】了事者。生死岸頭。能易麤爲細。能易短爲長。(48a3-5)

【聽 42】以智光明解脫。得出生一切法三昧王。(48b1-2)

【聽 43】以此三昧故。得意生身。向後。能得妙應身信身。(48b7-49a1)

【聽 44】道。如大海。轉入。轉深。(49a5-6)

【聽 45】達磨。有頌云。悟佛心宗。等無差互。行解相應。名之曰祖。(49b1-4)

【聽 46】更莫說宗門中。有超佛越祖底作略。聽上人。信麼。信與不信。向後。自知。(50a1-4)

- 【無 00】無字十節目(50b2)
- 【無 01】僧。問趙州。狗子。還有佛性也。無。州。云。無。蠢動含靈。皆有佛性。趙州。因甚。道無。(50b3-7)
- 【無 02】若言趙州禪。口皮邊。照顧。他日。喫鉄棒。(51a6-8)
- 【無 03】殊不知三世諸佛。骨髓。歷代祖師。眼目。一期。掀出。在你面前。(51b4-7)
- 【無 04】性燥漢。一肩。擔荷得去。山僧。拄杖子。亦未肯打你在。且道。畢竟。如何。(52a4-7)
- 【無 05】只者箇無。字。全無巴鼻。有些巴鼻。(52b4-5)
- 【無 06】或者。謂。是。斷命刀子。開差別智底鑰匙。好與三十棒。(52b8-53a2)
- 【無 07】是。賞耶。罰耶。直饒道得諦當。你在甚處。見趙州。(53a6-8)
- 【無 08】盡道。趙州古佛。眼光。爍破四天下。觀其道箇無。字。性命。落在本色衲子手裏。(53b3-6)
- 【無 09】有一等人。更向他無。字上。討滋味。豈不鈍置平生。(54a4-6)
- 【無 10】雖然。趙州道。無。你作麼生會。(54b2-3)
- 【無 11】趙州。露刁劍。寒霜光焰焰。擬議問如何。分身作兩段。(54b6-8)
- 【無 12】喝癡人面前。不得說夢。(55a4-5)
- 【無 13】要且我王庫內。無如是刀。必竟。趙州。是何面目。(55a8-55b2)
- 【無 14】妙喜道。不是有無之無。不是真無之無。還識妙喜麼。(55b6-8)
- 【無 15】若不具眼。又去東卜西度。轉添意識。切忌切忌。靈利漢。且道。趙州意。作麼生。(56a5-8)
- 【無 16】近來。多道。無。字。是鉄掃帚¹⁴。趙州意。果如是。不。有引他後語。爲證者。錯了也瞎漢。(56b5-57a1)
- 【無 17】莫將閑學解。埋沒祖師心。喝。(57a7-8)
- 【無 18】有云。無。字。是繫驢橛。你在何處。夢見趙州。欲得不招無閒業。莫謗如來。正法輪。(57b3-7)
- 【無 19】許多弊病。都拈去也。必竟。者箇無。字。落在甚處。(58a5-7)
- 【無 20】者箇無。字。有心。無心。俱透不得。(58b3-4)
- 【無 21】棄命。向未舉已前。著眼。忽然再甦。了徹無餘。一千七百則公案。誰敢向你面前。拈出。(58b8-59a4)
- 【無 22】諸佛祖。大機用。神通。三昧。三玄。三要。種種差別智。一切無碍慧。盡從此出。(59b2-5)
- 【無 23】雖然。那箇是你。自己。(60a5-6)
- 【無 24】一大藏教。是箇切脚。曾切著者箇無。字。否。(60b1-3)
- 【無 25】靈利漢。直下掀翻。洞明自己。捉破趙州。勘破佛祖得人憎處。許你道

¹⁴ 「帚」：孤雲寺本、氷鉢菴本は小字に作る。

大藏教。是拭瘡疥紙。(60b6-61a2)

【無 26】雖然如是。者箇無。字。從何處。出。(61a8-61b1)

【無 27】如是主張箇無。字。有甚奇特。(61b4-5)

【無 28】宗門中。許多公案。還有要妙。過此無者。否。(61b8-62a2)

【無 29】若有。何得如是品題他。(62a6-7)

【無 30】若無。未有趙州時。豈無佛祖。(62b2-3)

【無 31】具眼衲僧。一點。難謾。速道。(62b6-7)

【坐 00】休休庵主坐禪文(63a2)

【坐 01】夫坐禪者。須達乎至善。當自惺惺。截斷思想。不落昏沉。謂之坐。在欲無欲。居塵離塵。謂之禪。(63a3-7)

【坐 02】外。不放入。內。不放出。謂之坐。無著無依。常光現前。謂之禪。(63b6-64a1)

【坐 03】外撼。不動。中寂。不搖。謂之坐。迴光返照。徹法根源。謂之禪。(64a6-64b1)

【坐 04】不爲逆順。惱。不爲聲色。轉。謂之坐。觸幽則明。愈日月。化物則力勝乾坤。謂之禪。(64b6-65a1)

【坐 05】於有差別境。入無差別定。謂之坐。於無差別法。示有差別智。謂之禪。(65a8-65b3)

【坐 06】合而言之。熾然作用。正体如如。縱橫。得妙。事事。無碍。謂之坐禪。(65b8-66a3)

【坐 07】略言。如是。詳舉。非紙墨。能窮。(66b1-2)

【坐 08】那伽大定。無靜無動。真如妙体。不滅不生。(66b6-8)

【坐 09】視之不見。聽之不聞。空而不空。有而非有。(67a5-7)

【坐 10】大包無外。細入無內。神通。智慧。光明。壽量。大機。大用。無盡無窮。(67b3-6)

【坐 11】有志之士。宜善¹⁵叅究。急著精彩。以大悟。爲入門。(68a3-5)

【坐 12】{口<力}地一聲後。許多靈妙。皆自具足。(68b1-2)

【坐 13】豈同邪魔外道。以傳受。爲師資。以有所得。爲究竟者哉。(68b5-7)

【悟 00】示覺悟禪人法語普濟尊者(69a3)¹⁶

【悟 01】念起念滅。謂之生死。當生死之際。須盡力提起話頭。(69a4-6)

【悟 02】話頭。純一。起滅。即盡。(69b3-4)

【悟 03】起滅即盡處。謂之寂。(69b7-8)

【悟 04】寂中。無話頭。謂之無記。(70a3-4)

【悟 05】寂中。不昧話頭。謂之靈。(70a7-8)

【悟 06】即此空寂。靈知。無壞無雜。如是用功。不日成之。(70b3-5)¹⁷

¹⁵ 「善」：松廣寺本は「盖」に作る。

¹⁶ 【悟 00-06】：松廣寺本はこの一篇を「蒙山和尚法語略録」の前に置く。

¹⁷ 【悟 06】：深源寺本は 70b 以下を欠く。

蒙山和尚法語略録終(71a4)

<参考文献>

- 伊藤英人 2004. 「刊経都監訳経僧の白話解釈と翻訳をめぐって—『蒙山法語』諺解の分析—」
『朝鮮学報』193, 1-21 頁。
- 小倉進平 1940. 『増訂朝鮮語学史』, 東京: 刀江書院。
- 韓國學文獻研究所(朴炳采解題) 1980. 『蒙山和尚法語略録諺解(異本六種)』, ソウル: 亜細亞文化社。
- 弘文閣(李基文解題) 1996. 『蒙山和尚法語略録諺解(初刊本)』, ソウル: 弘文閣。
- 志部昭平 1983. 「李朝刊経都監本諺解様式 yi 確立 goa『蒙山和尚法語略録諺解』yi 成立」『第一次 KOREA 学国際学术交流論文集』, 3-13 頁, 牡丹江: 黒竜江朝鮮民族出版社。
- 通文館(權相老解題) 1954. 『蒙山和尚法語略録諺解』, ソウル: 通文館。
- 中村完 1963. 「蒙山法語の中期朝鮮語」『朝鮮学報』27, 240-216 頁。

<付記>

本稿は、中国語東アジア諸語研究会第8回例会(2004年6月6日, 青山学院大学)における発表「『蒙山法語』・『四法語』の語彙と語法」の際に配布した資料に基づく。